

花と温泉を求めて—韓国低山ハイキング(下) (2015.5.27～6.3)

関根 茂子

宿に戻って荷物を回収後、バスターミナルで冷麺(@6,000ウォン)を注文、それに麺を切るための鋏がついてきた。

15:45 発に乗車した路線バス(@7,000ウォン)は麦秋の麦畑と田植えしたばかりの農村地帯を走り東海岸に近い湖山(ホウサン)に16:45着。17:00 発バス(@1,300ウォン)に乗り継いで17:15 富邱(ブク)着。バス待合所の裏手は海でガラス水槽に魚が泳いでいる食堂が何軒かあった。

17:55 発徳邱温泉(ドックオンチョン)行きバス(@1,500ウォン)で太白駅の案内所で紹介された温泉手前にある台所付き貸し別荘?(60,000ウォン)に向かう。温泉ホテルは宿泊代が高いので諦めたのだった。

バス停で降りると近くの食堂からオバちゃんが走り出てきて、バス通り端の平屋に案内してくれた。大部屋が1つ、小部屋が3室、台所、シャワー室兼トイレという造りの戸建てだが、「大部屋を使え」と指示され、「食事は豆腐鍋(スンドゥ

ブ)しかできない」という。仲間がシャワーを使うと少しも温かくない。3番目の私になると少しは温水になったが、トイレといっしょではシャワーでバシャバシャ流すわけにもいかない。大きなタライに湯をためるがひびわれていて漏るという始末だった。

そのうちにまたオバちゃんが鍵を持って「早く御飯を食べに来て」という。ささやかな夕食後、明日は、部屋に荷物を置いて山に行く了解をとる。戻るとオンドルが効いてきたのか床が熱い。少しでも涼しい小部屋に逃れて早めに寝た。

◆6月1日(晴) 6:15 宿からまずはバス道路を終点の徳邱温泉に向かう。10分ほどでホテルに到着、そのまま車道を登っていくと帰路にとる尾根コースに入ってしまうようだ。「往路の沢コースはどこから?」とホテルでたずねると、ロビーを通りぬけた先が登山口とのこと、ちょうど、ガイドが宿泊客の夫婦を沢コース奥の源泉へ案内して出発するところだった。「無料で案内する」というガイドといっしょに歩き出したが(6:30)、ペースが速くて、ついて行けなかった。

花崗岩の溪谷道には次々に世界各国の有名な橋のミニチュアが現れ、渡り返しながらか進む。小魚が群れ泳ぐ瀬淵で、先行の客から手渡されたお米を投げ入れるとサアアッと魚が集まってきた。

流れをすぐ下に歩き続けて2つの木が途中で1つになっている連理杉の園地に着き(7:30)



徳邱温泉(ドックオンチョン)

ひとやすみする。日本の橋はなぜか秩父の巴橋だった。次の中国の橋を過ぎると足湯と間欠泉がしつらえられた源泉園地だった(8:00)。

登山道の続きは対岸だ。飛石伝いで渡り山神閣に参拝して8:15再び歩き出す。ジグザグにひと登りすると今までの遊歩道とは違い落ち葉でふかふかの巻き道が右岸についている。

13番目の最後の橋を渡る(8:27)とアカマツとナラの急登が始まり、30分間はがんばって登り続ける。右手木の間越しに下山に使う尾根が見える。チュルチュクも出てくるが葉ばかりで花はなかった。時々、現れる赤布に書かれた数字が増えていくのを励みに小石がざらつく急斜面をもくもくと登る。「ホホホ」と鳴く鳥の声が面白い。

「100」で山頂かと期待したのに「100」を越えても登りは終わらない。ミズナラの多い緩やかな尾根を10分も歩いて10:30ようやく鷹峰山(標高999m)にたどり着いた。東に東海(日本海)が望め、湖山にタンクが並んでいるのも見えた。下山路にとる道から単独の男性が登ってきて山頂の下の木陰を占めてしまった。私たちはその下の広場で大休止となる。

下山開始(11:07)。こちらは緩やかな尾根道だ。山頂までの距離を刻んだ石柱がところどころにあった。緩急の下りを交えてながら歩き易い道が続く。2時間も下ると緩い登りが出てきて「イヤだ」という足をなだめつつ歩いて登山口の看板地点に下りついた(13:39)。

行きに道を尋ねたホテルは入浴不可、公衆浴場のある温泉ホテルまでさらに歩かなければならなかった(13:55)。@8000ウォンの入浴料を払うと脱衣場入口でタオル2枚貸与された。洗い場手前の目籠に小さな新しい石鹼があり、それを手に



荷台はすべてニンニクの山積み

して入れば、中は日本の銭湯と同じよう。カランが並ぶほか、岩盤浴・湯温の異なる浴槽・水風呂・上がり湯などがある。日帰り温泉によくあるシャンプーやボディソープの大容量は置かれていなかった。登り4時間、下り3時間弱、8時間半行動の今日の山の疲れを温泉でゆっくり癒す。

15:15宿に帰りつき、荷をまとめて16:33バスに乗車して富邱に戻る。S姉とK嬢で宿探しの結果、バス待合所近くのクリンモーター(2部屋で80,000ウォン)に落ち着く(17:10)。夕食を待合所隣の食堂に入るが満員だった。「10分後に空く」というので、外をぶらぶらして待つ間に目にした荷台はすべてニンニクの山積みトラックにはびっくりだ。石焼ビビンバ(@5,500ウォン)は安くておいしかった。この店は朝6時から手巻きでキンパブを作ってくれることがわかり、明朝はキンパブにしようとする。ついさっき明日の朝食にとコンビニで共同購入してしまった大入り]袋詰パンは後回しとなったのだ。

◆6月2日(曇) 6:15昨夜の店で野菜キンパブ(@3,500ウォン)を巻いてもらい、コンビニで買った朝鮮人参茶カップ(@1,200ウォン)にお湯を注いで朝食とする。このお茶がやたら甘かったのは想定外だった。

乗り込んだ富邱7:45発東ソウル行きバス(@24,800ウォン)には、すでにたくさんの人が乗っていた。湖山を通過したバスは、8:19バスチェンジとなり、海岸沿いに北上して三陟(サンチョク)8:39着。高速バスタイプに乗り換えて8:47発、9:05東海(トンヘ)インターから高速道路に入り、途中休憩10分を1回はさみ11:45東ソウルバスターミナルに着く。

大通りを渡った江邊(ガンビョン)駅で温かいうどん(@4000ウォン)の昼食後、コインロッカーを探す。最新式指紋認証のロッカー(500ウォン)に大荷物を押し込み身軽になって、地下鉄を乗り継いでソウルにある本屋と地図屋に向かう。地下鉄の切符はカード式でデポジット加算(@1,150ウォン+500ウォン)払い、使用后、カード回収機に投入すると500ウォンが返金されるのだ。

本屋では韓国200名山(14,000ウォン)を購入、店内併設の喫茶店でコーヒー(3,000ウォン)休憩後、中央地図文化社(チュンアンチド)で韓国全図漢字版(6,000ウォン)を手に入れる。東ソウルで荷物を引き取って、これも地下鉄(@4,050ウォン

+500ウォン)で仁川国際空港駅17:50着、迎いの車で仁川ゲストハウスへ運ばれ、初日と同じ部屋に落ち着いた。

最後の晚餐は肉を食べよう。1階食堂街でブルコギ3人前(47,000ウォン)と豚三枚肉2人前(16,600ウォン)を注文した。食後、スーパーeマートでお土産の韓国海苔(3,980ウォン)とトウモロコシひげ茶パック(2,680ウォン)と干し柿(9,900ウォン)を買う。現地費用20万ウォン集金のうち9,000ウォン弱の返金あり。

◆6月3日(曇) 地下駐車場に7:50集合、他の宿泊客と同乗で仁川国際空港に送ってもらう。チェックインをして荷物を預ける列に並ぶ。結構混雑していた。手荷物・身体検査も混雑していて、係員に引っぱられて女性専用の列に並ばされてしまう。無事に通過して搭乗口ゲートで時間待ち、大韓航空KE703便1030発に搭乗して成田12:30着、小雨降る東京に帰った。

次回は鬱陵島(ウルルンド)に行って聖人峰(ソンインボン)984mに登る予定とのことだ。(完)